

学科名	声優・演劇科
コース名	
授業科目	舞踊Ⅳ
必選	選
年次	2年次
実施時期	後期
種別	実習
時間数	40
単位数	1
担当教員	花柳寿芽月
実務経験	有
実務経験職種	舞踊家
授業概要	1年次に学んだ基礎的動作の学習テキスト「踊り解体新書」シリーズの上級編「踊り解体新書Ⅲ」を用いて、琴や尺八をとり入れた現代邦楽の作品にチャレンジする。音楽を聴いた時の自己のイメージから連想された舞踊表現をテーマに併せて呼吸の表現－息の詰め、開き－を重視した作品を習得する。前期には歌舞伎舞踊的2作品から役柄の特徴の踊り分けを学び、後期にはリズムカルな作品で手踊りと、晒（さらし）と呼ばれる小道具の扱いを学ぶ。最終作品として創作舞踊「涛-とう-」（花柳園喜輔・振付）をデュエットで習得する。
到達目標	江戸時代に開花した庶民の芸能歌舞伎の一端を実体験することにより当時の文化の有様を推察しながら日本人の感性の鋭さの理解を共有する。そして、国際社会に於いて自国の伝統文化を説明することが出来、更なる日本伝統文化の継承と発展に帰依する真の国際人への成長をめざす。
授業方法	日本舞踊を踊るための身体作りや基礎的動作を発展させ、舞踊作品の一部を習得していく。
成績評価方法	実技テスト 90% 課題舞踊を試験し、技術、情感等総合的に評価 平常点 10% 積極的な授業参加度、授業態度により評価
履修上の注意	日本の伝統芸能の多くは先ず稽古と呼ばれる、形式や型等外観的要素を重んじた練習形態である。その上で精神性を注入し、人間性の濃い表現へと移行することが大切と思い創作にもチャレンジする。コピーでないひとり1人の表現を尊重し、各々の個性を生かした表現の実現を目指す。授業時数を85%以上出席しない者は実技試験を受験することができない。
教科書・教材	私家版 各作品の解説、歌詞本

授業計画	
第1回	「長唄 越後獅子」歌舞伎舞踊的作品のリズミカルな作品からリズムを感じる。
第2回	「長唄 越後獅子」手踊りの表現、小道具の扱いを知る。
第3回	「長唄 越後獅子」手踊りの表現、小道具の扱いの研究。
第4回	「長唄 越後獅子」音楽を感じながら身体表現に活かす。
第5回	「長唄 越後獅子」リズムに乗って踊る。
第6回	「長唄 越後獅子」音楽に合わせて役柄に合った表現で踊る。
第7回	「創作 涛-とう-」歌舞伎舞踊的作品との違いを感じる。
第8回	「創作 涛-とう-」作品に込める精神性を探る。
第9回	「創作 涛-とう-」個性を生かした表現について考える。
第10回	「創作 涛-とう-」デュエット作品の踊り方を考える。
第11回	「創作 涛-とう-」デュエット作品における個性を尊重した表現を探る。
第12回	「創作 涛-とう-」舞踊表現についての発見を踏まえて踊る。
第13回	まとめ 今までの復習 歌舞伎舞踊的作品での役柄の踊り分けについて
第14回	まとめ 今までの復習 創作舞踊作品と歌舞伎舞踊的作品の違いを考える
第15回	総まとめ 「長唄 越後獅子」「創作 涛-とう-」舞踊発表